

座長：浦田 香代美（JCHO相模野病院 副臨床検査技師長）

医療安全管理の視点から ～感染防止対策としてのワクチン接種の重要性～

株式会社エスアールエル 感染症・マニュアル検査部

飯田 慶治

近年、成人を中心に風しん、麻しんが流行しています。これらの感染症は成人が罹ると重症になることが多く、特に風しんでは妊娠初期の妊婦が感染すると、新生児の目や耳、心臓などに障害が起こる先天性風しん症候群（CRS）に罹る恐れがあります。直近では2012～2013年の流行時に計45例のCRSが報告されました。このような状況を受け、国は2020年度までに風しん排除の達成を目標に、追加的対策である第5期定期接種（クーポン事業）を開始しました。しかし、当対策の抗体検査やワクチン接種の5月末までの実施率はあまり高くないようです。今後の追加的対策の周知徹底が望まれます。

麻しんは2015年3月以降、WHOにより日本は「麻しん排除状態にある」と認定されています。しかし、日本在住者が海外から持ち帰って国内発症する事例や海外からの観光客などが持込む輸入例により、小規模な集団発生が全国で散発しています。

麻しんは強い感染力を持つ発疹性疾患であることから、発生時には早期診断と感染拡大防止処置が必要です。また、麻しん排除状態を持続するためにも、高い接種率の維持が必要となります。

流行性耳下腺炎や水痘も同様にワクチン接種により感染拡大を防止できる疾患です。また、带状疱疹の発症を予防することもできます。

医療関係者は自分自身を感染症から守るとともに、自分自身が感染源となってはならないため、感染防止に積極的に取り組む必要があります。また、患者への二次伝播リスクの低減や感染症による欠勤、医療費等の経済損失の防止を防ぐ必要もあります。ワクチンで防ぐことができる疾患（VPD）をワクチン接種により予防することは、感染を制御する上で基本となる要素です。

本セミナーでは主に麻しん、風しんの現状と感染防止対策としてのワクチンの重要性、免疫の有無を確認する抗体検査の特徴や結果の読み方について説明します。

共催：株式会社エスアールエル